

ペルー ブルーベリー輸出は前年に比べ減少

[FreshPlaza 2024年9月27日](#)

ペルーのブルーベリー輸出は昨シーズンに比べ7%減少

2024/25年度のペルー産ブルーベリーの出荷シーズンが進む中、前シーズンの数字には遅れをとっているものの、実績は業界の予測とよく一致している。第37週(9月半ば)までに、合計4万4,926トンのブルーベリーが様々な市場に出荷され、これは2023/24年度シーズンより7%少ないが、最近の予測に比べて1%多い。

総出荷量のうち、4万2,296トンは慣行栽培のブルーベリーで、昨シーズンから1%減少したが、予測よりは2%多い。有機ブルーベリーの出荷量は2,629トンで、前年比52%減で、予想を14%下回っている。

第37週の出荷量は9,274トンで、2023/24年度出荷シーズンの同時期より30%多いが、直近の予測より2%少ない。出荷量が最も多い業者は6,550トンのコンポソル社で、次いでアグロビジョンペルー社及びその他の主要出荷業者が総出荷量の大部分を占めている。

米国は引き続きペルーのブルーベリーの主要輸出先であり、2万2,707トンを受け取って51%の市場シェアを確保している。その他の主な市場は、中国、欧州諸国、英国、及び新たな輸出先等で、前シーズンと比較した出荷量の傾向は様々である。

産地別では、ラリベルタ県がブルーベリーの輸出量が最も多いが、2023/24年度シーズンに比べて11%減少した。ランバイエケ県は顕著な増加を見せたが、アンカシュ、イカ、リマ、ピウラ、モケグア、アレキパの各県等他の地域の輸出量はまちまちの結果を示した。

出典: [Blueberries Consulting](#)

世界のオレンジ市場(抜粋)

[FreshPlaza 2024年9月27日](#)

南アフリカ産のオレンジは、まだ市場で多く見かけるが、同国では冬の天候が地域によって様々であったほか、国内の果汁価格が高騰したため、輸出量が減少した。ブラジルの悪天候による果汁用オレンジの不足は今後も続く予想されており、南アフリカのオレンジ果汁価格の高騰もあと数シーズン続くものと見られる。このことは生産者に、輸送費や梱包費用をかけずに出荷して良い収入を得る選択肢を与えている。

エジプトでは12月に新シーズンが始まるが、紅海危機は長引く可能性が高い。生産者と輸出業者は、次のシーズンも危機の状況によって左右されると予想している。エジプトの輸出業者の価格設定の観点からは、次のシーズンの成功のためには、数量の削減が不可欠である。

北米では、国内産のオレンジの収穫が始まっている。フロリダ州では一部の早いオレンジの収穫が始まったが、本体の収穫は10月中旬頃まで準備が整わない。収穫量はやや減少するが、生鮮市場向けには多くの果実が期待されている。テキサス州はあと3~4週間で出荷の準備が整い、メキシコも同様である。

中国市場では、南アフリカ産オレンジの量をさばくためには合理的な価格帯が必要であり、現在までの入荷量は前年同期の60%にすぎない。

アルゼンチンのオレンジ生産者と輸出業者にとっては、価格が適切でなかった昨年とは異なり、今シーズンは全般的に好調な年であった。

スペインでは、オレンジの出荷量が2024/25年度シーズンにやや回復すると予想されている。マンダリンの出荷量は前年を下回る見込みである。南半球からの供給が少ないため、スペイン産オレンジの出荷シーズンの開始が関心を集めている。スペインの柑橘類業者は、既に8月末ないしは9月上旬から、最初のナベリーナオレンジの高い価格での購入を園地で進めている。